

事例 16

交流・居場所

～「子どもの居場所」は、みんなの居場所～

【栄区事例】「花かご文庫 ユトリロー」(令和2年9月開設)

団体紹介

- ・団体名：花かご文庫 ユトリロー
- ・活動者の受講年度：平成30・令和元年度（第3・4期生）
- ・活動実績：毎月第2、第4土曜日（12：00～17：30）開館
親・子合わせて1日15人前後が訪問



子ども手伝う駄菓子コーナー

活動内容

代表の富江 里栄さんは学童保育所スタッフ歴 25 年以上。「子どもが何もしなくてもいられる場所を作りたい」という思いから、「居場所づくり」をテーマにした「栄区地域づくりキャンパス」を2年に渡って受講しました。そして令和2年の秋、コロナ禍という逆境にも負けず、念願の「花かご文庫 ユトリロー」をオープン。閑静な住宅街にある空家を活用した「花かご」内にある居心地のいい空間です。内容は読書活動、駄菓子屋、折り紙やお茶の教室など。地域の若者がルービックキューブのパフォーマンスを披露するなど、発表の場としても活用され始めています。小学生が駄菓子屋の店番を手伝ってくれるのよ、と富江さんは嬉しそうに語ります。



代表者の富江さん

「地域に根ざすコンパクトな居場所があちこちにあるのが理想的」というのが持論。学童のスタッフ時代に知り合った人や、自治会、地域ケアプラザ、区役所ともつながりを持ち続けてきたことが今、実を結んでいるように感じると言います。目下の目標は、活動の協力者を発掘すること。「できることを、できる時に、できるだけやる」をモットーに、今日も富江さんは笑顔で訪れる人を迎えています。